

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13353

研究課題名（和文）近代日本の禁酒運動と教育・メディア 日本禁酒同盟資料館旧蔵史料を対象に

研究課題名（英文）The Temperance Movement in Modern, Media, and Education: Based on Historical Materials Formerly owned by the Japan Temperance Union Museum

研究代表者

横山 尊（Yokoyama, Takashi）

九州大学・比較社会文化研究院・特別研究者

研究者番号：20712152

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本国民禁酒同盟旧蔵史料を対象とし、1920～40年代の日本の禁酒運動のメディア、さらに未成年者飲酒禁止法（1922年）などの遵法を通じた禁酒教育の解明を試みた。主たる成果は、第一に、武蔵野大学が所蔵する日本国民禁酒同盟旧蔵史料、さらに安藤記念教会が蔵する明治～大正期の日本禁酒同盟史料の主な媒体の撮影を済ませた。第二に、その史料のうち、戦前の『禁酒新聞』、さらに青少年向けの禁酒雑誌『のぞみの友』の目次集を作成し、武蔵野大、日本禁酒同盟に提供し、禁酒運動研究の基礎情報の豊富化に貢献した。第三に、そのメディアを通じた広義の禁酒教育の社会、政治への影響を考察した複数の成果を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、日本禁酒同盟資料館所蔵史料の全面的活用、メディア分析、原史料研究に基づいた、禁酒運動研究史の前例のない精緻化ができたことである。日本国民禁酒同盟の内部史料は国会図書館や全国の大学図書館に所蔵はほとんどなく、他の研究者の活用例はほぼなかった。しかし、本研究により、『禁酒新聞』、『のぞみの友』は実態が解明され、禁酒運動の予想外の社会への浸透を理解することができた。研究成果の社会的意義は、現代社会において未成年者の飲酒の管理や取締に関する規範が次第に強まりを見せている中、その歴史的背景を精緻に解明し、歴史的観点からの考察の材料を過去にない精度と分量で提供できたことである。

研究成果の概要（英文）：This research focused on historical materials formerly owned by the National Temperance Union and attempted to elucidate temperance education through the media, as well as legal compliance such as the Minor Drinking Prohibition Law (1922) in the 1920s and 1940s. The main results were, firstly, the completion of the photoshoot of the photographs of the historical materials of the Japan Temperance Alliance Museum, which are now owned by Musashino University. Secondly, among the historical materials, I created databases of contents of the monthly periodical Kinshu Shinbun and a temperance magazine for boys and girls, Nozomi no Tomo. These contents were provided to Musashino University and the Japan Temperance Union to serve as the basis for research on the temperance movement. Thirdly, I presented several results that examined the social and political impact of temperance education in a broad sense through the media.

研究分野：日本史学

キーワード：禁酒運動 メディア 教育 日本禁酒同盟資料館史料

1. 研究開始当初の背景

本研究は、申請者の近現代日本における禁酒運動の史的研究の延長上にある。

1920年、日本国民禁酒同盟（以下、同盟と省略することがある）が、日本禁酒同盟会と国民禁酒同盟が合同するかたちで、結成された。「禁酒主義団体の聯絡提携を計り、その活動に組織と、統整を与へて禁酒運動の促進大成を期し、以て我が国を無酒国たらしめる」ことを謳った。主たる活動としては、二十五歳未満者飲酒禁止法の成立、アルコール中毒の廃絶などを目標とし、諸地域・職域社会の禁酒会の成立の促進を行っていた。1920年代以降の同盟を中心とした禁酒運動の活動範囲は全国的かつ広範囲にわたった。

申請者は、2015年5月から18年5月まで、社会事業史学会第6回吉田久一研究奨励賞研究助成を受け、「近代日本における禁酒運動の展開の解明と社会事業史への位置づけ—日本国民禁酒同盟を中心に」に取り組み、16年4月から日本学術振興会特別研究員PDとして、「禁酒運動と近現代日本の地域・職域社会—日本禁酒同盟資料館史料を通して」に取り組み、19年3月まで実施する。東京都三鷹市にあった日本禁酒同盟資料館旧蔵史料（16年から武蔵野大に移動）を駆使して、1920年結成の日本国民禁酒同盟の研究に携わってきた。同史料群は、これまで研究者にほとんど活用されてこなかった。

禁酒運動は、明治期はキリスト者など宗教者を中心に展開された。しかし、1920年に同盟が成立し、22年に未成年者禁酒法案が衆貴両院で通過した頃には、禁酒運動は信仰・宗教を離れていった。そして、20年代に変動した社会環境に伴って登場した諸問題の解決を掲げ、労働者、国民の衛生・風紀に加え、生活、労働の場（企業、地域の青年団）の問題、さらに優生学、遺伝の問題へ深められていった。

申請者の研究の特色は、その禁酒運動の変動期に見られた禁酒運動の展開の諸相を、地域・職域社会のそれぞれの同時代的な変動を踏まえ、解明してきた点にある。これまで、地域社会、労働社会、医療・厚生政策を対象に、複数の論文発表や学会報告を行ってきた。

ただし、未解明、未着手の内容は多く残っていた。最たるものが、未成年者を対象とした教育の問題だった。特に、未成年者飲酒禁止法の論戦や運用の問題、姉妹団体の学生排酒聯盟、少年禁酒軍、それに伴って刊行された雑誌メディアの分析などは大きな課題として残った。そのため、これらの解決に取り組むべく、本研究に着手した。

日本国民禁酒同盟が刊行したメディアに機関誌『禁酒之日本』、宣伝紙『禁酒新聞』があり、本研究は、その内容の収集、分析に努めた。

また、禁酒運動は、ハイティーン以下のものにも及んだ。日本キリスト教婦人矯風会は、特に守屋東を中心に、少年禁酒軍を結成し、1902年から雑誌『少年新報』を刊行した。日本国民禁酒同盟は、1920年代後半から、児童を対象とした禁酒雑誌『のぞみの友』を刊行した。特に後者は、児童に飲酒の害悪の恐怖を植え付け、親の心情に訴えて禁酒を説得させ、その上で、児童をも禁酒運動に包摂する意図があったように見える。それらの活動の前提には、1922年成立の未成年者飲酒禁止法があったものの、日本国民禁酒同盟や日本学生排酒聯盟は、その年限を25歳にまで延長する二十五歳未満者飲酒禁止法の成立を図り、敗戦後まで活動を続けた。さらに、同法は1937年に台湾、朝鮮、樺太などの地域に拡張され、その前後に同盟はそれらの地域での宣伝活動も行った。本研究は、それらの動向の実態解明を図った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本国民禁酒同盟、日本学生排酒聯盟の学生や児童に対する禁酒運動の組織化や酒害教育を通して、近代日本の飲酒・禁酒をめぐる教育文化や人的ネットワークの解明、現代の未成年者の飲酒をめぐる管理や取締の歴史的背景を解明することだった。

その際、下記の問いを立てながら、研究を進めた。

日本国民禁酒同盟はどのように学生や児童を禁酒運動に取り込み、どのように活動は展開されていったのか？

同盟が刊行したメディアはどのように禁酒教育、酒害教育を行い、それはいかなる編集方針と編集組織、執筆陣のもとで成されていったのか？

未成年者飲酒禁止法の運用、外地への拡張や改正をめぐる論議はどのように展開され、同盟や聯盟はどのように活動し、そのメディアはどのように動員されたのか？

3. 研究の方法

本研究は、日本国民禁酒同盟禁酒同盟資料館の旧蔵史料に基づく内容だった。史料は2016年に武蔵野大学政治経済研究所に寄贈された。そのため、武蔵野大学にたびたび赴き、その内容をデジタルカメラで撮影することを行った。その内容は、同盟が刊行したメディアである『禁酒之日本』、『禁酒新聞』、『のぞみの友』に加え、同盟の内部資料、トラクト類の主だったものをデジタルカメラで撮影する作業を繰り返した。内部資料には、同盟の総主事を長く務め、理事長にもなった小塩完次日記も含まれる。

さらに日本国民禁酒同盟の姉妹団体、日本学生排酒聯盟に関する史料収集も行った。同聯盟は、1922年10月、「学生より酒類を排し、更に此運動を社会に及ぼす」ことを目的とし

たが結成された。会長は教育学者の沢柳政太郎が務め、顧問を安部磯雄、賀川豊彦、高島米峰、同盟理事長の伊藤一隆、少年禁酒軍の守屋東らが務めた。もとは早稲田大学や青山学院、東京帝大など東京の学生が中心だったものの、発足から10年で、加盟団体は、北は北海道帝大のものから南は台湾高等学校排酒同盟まで81に及んだ。さらに1926年から会誌『無酒国』を刊行した他、その動向は日本国民禁酒同盟の媒体で度々報じられた。その資料も武蔵野大学には多く所蔵されており、デジタルカメラでの撮影を進めた。

さらに、東京港区の安藤記念教会には、明治・大正期の日本禁酒同盟の中心人物だった安藤太郎が残した日記類や雑誌『国の光』の大半を所蔵し、青山学院大学資料センターも同誌や関連資料を所蔵しており、やはり内容をデジタルカメラで撮影する作業を繰り返した。加えて禁酒運動は同時代の酒文化とも密接な関係を有するため、その関連史料、書籍、研究の幅広い収集にも努めた。その上で、収集した資料類の読解を進めた。

加えて、禁酒運動は様々な地域・職域社会や社会運動、生活改善運動に影響を及ぼした。その周辺資料を収集することに努め、国立国会図書館、日本家族計画協会、国際基督教大学図書館、国立社会保障人口問題研究所、国文学研究資料館などの機関に赴き、史料収集を行った。

さらに、研究の基礎作業として、月間新聞『禁酒新聞』(1923~1945年分)、少年禁酒雑誌『のぞみの友』の目次データベースを作成した。記事名、筆者名、肩書などの情報である。さらに、目次はヒストグラムによる分析も参考にし、これを雑誌本文と照合し、メディアの論調の全体的傾向や関心の年次的な推移について分析を行った。

その上で、収集した史料をもとに、禁酒運動のメディアの役割、未成年者飲酒禁止法の遵法や拡張におけるメディアイベントや広義の社会教育の役割、さらに地方・職域社会における社会教育としての禁酒運動の機能などの考察を、台湾、朝鮮、樺太などの外地の動向も交えながら、分析を進めた。

4. 研究成果

本研究の進行中に新型コロナウイルスが流行し、それに伴う県外図書館の閉館など、種々の不便に見舞われ、当初予定した内容に変更を強いられた部分も存在する。しかしながら、多くの成果があった。本研究の主たる成果は次の通りである。第一に、武蔵野大学が所蔵する日本国民禁酒同盟旧蔵史料、さらに安藤記念教会が蔵する明治~大正期の日本禁酒同盟史料の主な媒体の撮影を済ませた。第二に、その史料のうち、戦前の『禁酒新聞』、さらに少年少女向けの禁酒雑誌『のぞみの友』の目次集を作成し、武蔵野大、日本禁酒同盟に提供し、禁酒運動研究の基礎情報の豊富化に貢献した。第三に、そのメディアを通じた広義の禁酒教育の社会、政治への影響を考察した複数の成果を発表した。

日本国民禁酒同盟資料館旧蔵史料などのデジタルカメラ撮影の進展

本研究により、日本禁酒同盟資料館旧蔵史料の主だったメディアや内部資料の相当数のデジタルカメラでの撮影が完了した。具体的には、日本国民禁酒同盟が刊行した『禁酒新聞』、『のぞみの友』、機関誌『禁酒之日本』については、『禁酒新聞』の1970年代以降の内容を除けば、全巻全ページの撮影が完了した。さらに、同盟が残した内部資料、トラクト類、小塩完次日記の相当部分の撮影も行い、日本学生排酒聯盟関係の資料や会誌『無酒国』の武蔵野大所蔵分も全て撮影した。加えて、安藤記念教会所蔵の『安藤太郎日記』の相当部分に加え、同教会が所蔵する『国の光』誌も所蔵分は全巻撮影を行った。このことにより、国内で確認可能な同誌の撮影は全て行ったことになる。上記の成果により、日本国民禁酒同盟や関連団体の史的分析を行う際、機動的に必要情報を検索、参照できる環境が、本研究に着手する前と比すれば、大幅に改善したことになる。

月刊『禁酒新聞』(1923~45年分)、少年禁酒雑誌『のぞみの友』の目次データベース完成

日本国民禁酒同盟の宣伝紙と位置づけられた『禁酒新聞』は、禁酒運動の中核や地方の動向を仔細に知る上で極めて有益な情報が満載である。それにも関わらず、先行研究は従来全くこの内容を活用してこなかった。これは少年禁酒雑誌『のぞみの友』も同様である。本研究では、特にこの2つの媒体に焦点を定め、その目次集を作成し、データベース化を行った。このことにより、禁酒運動の必要情報を機動的に検索することが可能になった。同時に内容をヒストグラムにかけることも可能となり、頻出用語、頻出人物の把握が数量的に把握することが可能になった。

この内容は、日本禁酒同盟、並びに現在の史料の所蔵者である武蔵野大学政治経済研究所に提供済である。特に武蔵野大学が今後、さらに史料整理を進め、その活用を図る上でも有益な材料が提供できたと思われる。加えて、現在、報告者は、武蔵野大学、日本禁酒同盟と共同で、日本の禁酒運動の研究書籍の刊行を目指しているが、本データベースはその基礎資料としても活用が期待できる。

史料収集、目次データベースの分析に基づく論文・総説・学会発表

、の成果に基づき、本研究では複数の論文、総説、学会発表を行うことができた。

まず禁酒運動とメディアとの関わりについて、**2022年6月25日**、メディア史研究会第**324**回月例研究会にて、研究報告「昭和戦前期における禁酒メディアの性格—『禁酒新聞』を中心に」を行った。日本国民禁酒同盟が刊行した昭和戦前期の『禁酒新聞』を対象として、禁酒メディアが禁酒運動に果たした役割、影響、その特質を考察した。完成させた戦前の目次も活用し、同紙成立をめぐる問題点や同紙の性格を論じ、青年団を対象とした普及運動など、その宣伝の性格を考察した。この内容は、論文「昭和戦前期における『禁酒新聞』の頒布の実態」(『メディア史研究』**53**号、**2023年2月**)として活字化された。さらに、メディア史研究会では、**2023年4月22日**の第**333**回月例会で、研究報告「昭和戦前期における少年向け禁酒メディアの戦略—『のぞみの友』を中心に」を行った。同誌の目次データベースの内容を活用した内容である。

未成年者飲酒禁止法の遵法と同時代の教化運動、社会教育をめぐる行政との関わりについて、外地の動向まで視野に入れた分析も行った。そのあり方を酒なし日というメディアイベントの中に見出した論文として「戦間期日本の教化動員と禁酒運動—酒なし日の登場と変奏」(『メディア史研究』**54**号、**2023年9月**予定)が掲載予定である。

「教化」という概念と禁酒運動の連関は同時代の労務者教育の中にも見出せた。それを論じたものに、**2019年12月11日**に大原社会問題研究所月例研究会の研究報告「深川正夫の労務管理思想とその実践—三井三池労務管理から大日本産業報国会参画へ」がある。深川は、三井鉱業所、本店で労務管理を担当し、大日本産業報国会錬成局長、戦後は労働組合法の立案にも参画した人物である。その労務管理は禁酒運動とも結びついた、生活への微細な介入を特徴としており、本報告はそうした労働の能率増進(合理化)と日本主義の融合による労働者動員のあり方も考察した。禁酒運動は職域社会にまで進出し、労務管理、福利厚生と結びついた労務者教育にも影響を与えた様相については、「山本作兵衛、ヤマの禁酒会に入る」(『西日本文化』**499**号、**2021年7月**)、「禁酒工場」日本足袋、「絶対禁酒家」石橋正二郎 - 昭和初期の久留米の禁酒運動」(『西日本文化』**502**号、**2022年4月**)でも論じた。

未成年者飲酒禁止法をめぐる規範意識は、**1920**年代以降、地域社会にも広がった。報告者は居住する福岡県を素材に、**1920**年代の運動と背景を明治期まで遡及的に分析した。その成果が、「福岡県の禁酒運動と宗像—福岡県禁酒聯盟の結成まで」(『宗像市史研究』**3**号、**2020年3月**)である。明治から昭和初期の日本禁酒同盟や後継団体の日本国民禁酒同盟の刊行した媒体の福岡県の情報を基に、旧宗像郡をはじめとした地域史料を加味し、禁酒会の地域間のコミュニケーションの動向やと日本禁酒同盟や日本国民禁酒同盟などのメディアの役割を論じた。同稿をもとに「宗像地域の禁酒運動」『時間旅行ムナカタ Plus』**19**号(**2020年10月**)を公表した。さらに、報告者が執筆依頼を受けた、新修宗像市史編集委員会『新修宗像市史—いくさと人びと』(宗像市、**2022年**)の中でも、戦時における地域の飲酒動向と禁酒指向について部分的に論じた。加えて、**2020年2月15日**に、日本医史学会福岡地方会で、研究報告「福岡県の禁酒運動と医学者」を行った。福岡県の禁酒運動の動向については、**2020年7月**に朝日新聞社の取材を受けた。その内容は、**2020年8月4日**の同紙の大分版などに掲載された。

加えて、禁酒運動はアルコール中毒の遺伝の観点から優生政策や厚生政策と関連深く、それについての依頼原稿も複数作成した。例えば、論文「出生前診断の歴史と現在—自発的優生学の系譜」(『日本健康学会誌』**87**巻**4**号、**2021年7月**)を公表し、禁酒運動研究の成果を盛り込んだものになっている。

社会教育としての性格を帯びた禁酒運動は、生活改善運動とも結びついた。**2022年5月27日**の日本科学史学会第**69**回年会では、研究報告「禁酒運動と新生活運動—敗戦後日本の動向とその系譜」を行った。本研究の内容は、戦前が主だったが、本報告では対象を敗戦後にまで拡張し、敗戦後の動向を研究する糸口を見いだした。

本研究を推進したプロセスで、日本の禁酒文化に加え、飲酒文化まで知見を拡げ、近現代のみならず、前近代や世界史的動向に関する研究を広く学び、本研究に役立てることも心掛けた。その成果を、筑紫女学園大学の「日本文化論」で「飲酒と禁酒」の文化論—日本と世界」というトピックを立てて講義し、研究活動の成果を大学教育にまで反映させる試みも行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 横山尊	4. 巻 54
2. 論文標題 戦間期日本の教化動員と禁酒運動 酒なし日の登場と変奏	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 メディア史研究	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山尊	4. 巻 53
2. 論文標題 昭和戦前期における『禁酒新聞』の頒布の実態	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 メディア史研究	6. 最初と最後の頁 91-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山尊	4. 巻 499
2. 論文標題 山本作兵衛、ヤマの禁酒会に入る	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西日本文化	6. 最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山尊	4. 巻 502
2. 論文標題 「禁酒工場」日本足袋、「絶対禁酒家」石橋正二郎 - 昭和初期の久留米の禁酒運動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西日本文化	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山尊	4. 巻 87(4)
2. 論文標題 出生前診断の歴史と現在 自発的優生学の系譜	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本健康学会誌	6. 最初と最後の頁 139-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3861/kenko.87.4_139	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横山尊	4. 巻 19
2. 論文標題 「宗像地域の禁酒運動」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 時間旅行ムナカタPlus	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横山尊	4. 巻 86(5)
2. 論文標題 「優生学史における日本民族衛生学会の位置」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本健康学会雑誌	6. 最初と最後の頁 197-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横山尊	4. 巻 86(付録)
2. 論文標題 「特別講演 出生前診断の歴史と現在」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本健康学会雑誌	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横山尊	4. 巻 3号
2. 論文標題 福岡県の禁酒運動と宗像 福岡県禁酒聯盟結成まで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宗像市史研究	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 横山尊
2. 発表標題 昭和戦前期における少年向け禁酒メディアの戦略 『のぞみの友』を中心に
3. 学会等名 メディア史研究会第333回月例研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山尊
2. 発表標題 昭和戦前期における禁酒メディアの性格 『禁酒新聞』を中心に
3. 学会等名 メディア史研究会第324回月例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山尊
2. 発表標題 出生前診断の歴史と現在 自発的優生学の系譜
3. 学会等名 日本健康学会総会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横山尊
2. 発表標題 深川正夫の労務管理思想とその実践 三井三池労務管理から大日本産業報国会参画へ
3. 学会等名 大原社会問題研究所月例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横山尊
2. 発表標題 福岡県の禁酒運動と医学者
3. 学会等名 第36回 日本医史学会福岡地方会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 横山尊、他多数	4. 発行年 2022年
2. 出版社 宗像市	5. 総ページ数 782
3. 書名 新修宗像市史 いくさと人びと	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関